

資料 7

「東京都学校教育情報化推進計画」 説明資料

都立学校では、令和元年度以降「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」を推進し、児童・生徒の一人1台端末や校内無線LAN環境、学習支援クラウドサービス等のICT環境整備に取り組んできました。

こうした取組みにより、授業において、子供たちが端末を用いて自らの課題意識に基づき情報収集することや、クラウドを活用し資料を共同編集することなどもできる環境が整いました。

「デジタルを活用したこれからの学び」とは、だれ一人取り残さず、子供たち一人ひとりの力を伸ばしていくことを目指し、デジタルの力を活かして主体的・対話的で深い学びの実現を図っていく、これまでと大きく異なる授業の姿です。

予測困難なこれからの時代を生き抜く子供たちが、自ら考え、課題を解決していく力を身に着けられるよう都教育委員会は、「デジタルを活用したこれからの学び」を研究し、推進していきます。



本資料は、都教育委員会にて作成した「デジタルを活用したこれからの学びの提案」(令和5年4月)や中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月26日)を参考に作成しています。
なお、「デジタルを活用したこれからの学びの提案」は、「とうきょうの情報教育」(<https://infoedu.metro.tokyo.lg.jp>)に掲載しています。

デジタルを活用したこれからの学び

◆「デジタルを活用したこれからの学び」を実現する授業の姿

教員は子供たちの状況を把握し、指導・支援

クラウド上の作成物を見て、すぐに教員がコメント。学びを深める。

このモデルは、学ぶ内容等に応じて柔軟に取り組みます。

- 例) ・1回の授業(1単位時間)で行う。
- ・単元ごとに数単位時間をかけて行う。
- ・1単位時間の中で分けて行う。

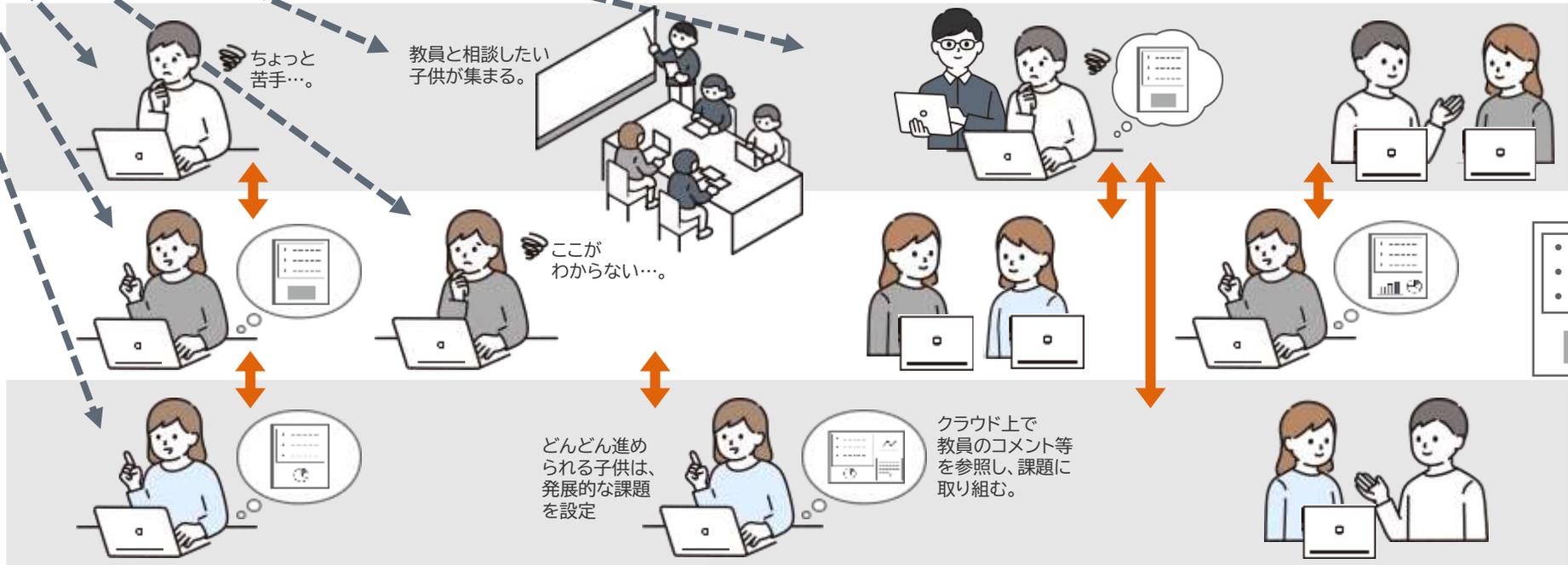
都教育委員会では、まずは現在の“総授業時間の2割程度”を目標に、このような授業を始めていくことを推進していきます。

子供の作成物・教材等をクラウドで共有
子供たち同士や教員がいつでも参照可能

子供たち一人ひとりが、

- ・自分の課題を設定
- ・一人で、教員や他の子供と一緒に、など課題への取り組み方を自分で決める。

子供たちは、他の子供の取組状況を見たり、相談したりしながら、課題に取り組む。



自分の興味・関心に基づき
学びを深めている。



自分の考えを構造的に
整理している。

誰と学ぶか、どのように学ぶか
を自分で決め、自ら学んでいる。



デジタルを活用した学び
による子供たちの変化

苦手な学習でも、他の子の
考え方を参考にしながら、
学習を進めている。



自分が学びたいと思った
時に、場所や時間に関係
なく学んでいる。

教員は、クラウドに上げられた情報
から子供たちの学習状況を把握し、
個々に応じた言葉掛け、支援を実施



デジタルを活用したこれからの学び

◆「デジタルを活用したこれからの学び」により育成を目指す資質・能力

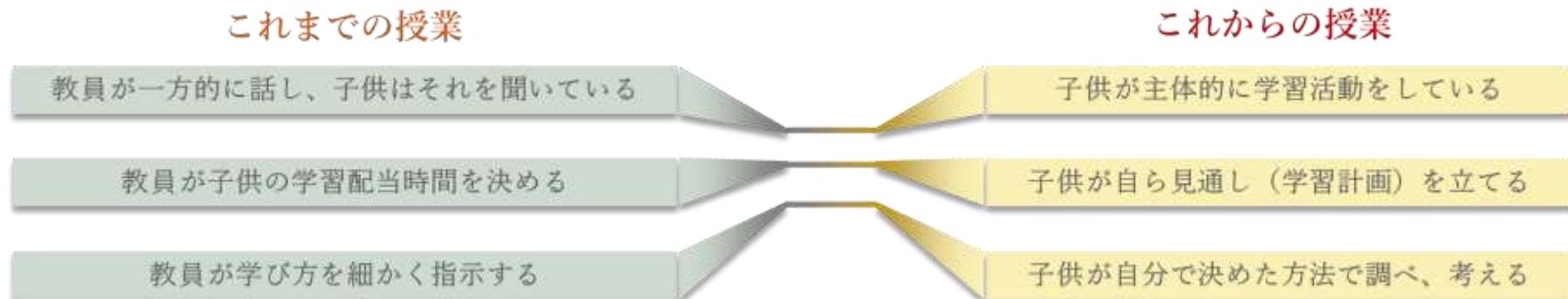
予測困難な時代において、“よい変化を起こそう”と、自分で課題を設定し振り返り、責任を持って行動する力

◆ 資質・能力の育成に向け、今、授業に求められること

子供たちが、それぞれ学習の見通しや計画を立てるとともに、クラウドを活用し他者と協働しながら調べ、考え、自分なりの答えを導き出す学習活動を行えるよう授業を展開していきます。

教員には、子供の学びたいという意欲をどのように引き出すのがよいのか、どのような教材を準備することがよいのか、などを注意深く検討し、一人ひとりに応じた計画作成や自分のペースで学びを進めることができるよう支援することが求められます。

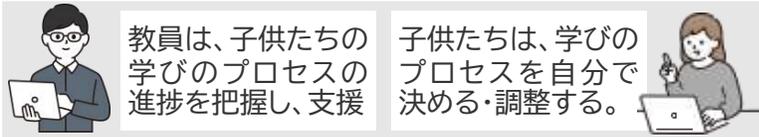
これまで学校では、教員が学習内容を一方的に話し、子供はそれを聞いているなど、一斉講義型の授業が多く行われてきました。今後は、教員のこれまでの指導観を思い切って変え、予測困難な時代を生き抜くための資質・能力を育成することが必要です。



デジタルを活用したこれからの学び

◆「デジタルを活用したこれからの学び」のポイント

学びのプロセス



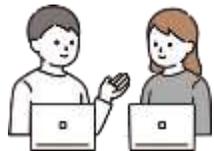
思考のスキル

- 学びのプロセスの各段階で、どのように考えるか？
- 情報を分類・分析するなど考えるための技法を身に付ける。

デジタル活用



一人1台端末・学習支援クラウドサービス等の活用



- 子供たちは、お互いの学習をリアルタイムで自由に閲覧できる。
→ 学びのプロセスのなかで他者の取組内容を適宜参考にして、自分の考えを深めることが可能



- 教員は、端末で全員の学習状況をリアルタイムで把握できる。
→ 子供が個々に学習している状況でも適宜支援することが可能

「デジタルを活用したこれからの学び」においては、「学びのプロセス」「思考のスキル」「デジタル活用」の三つが重要です。

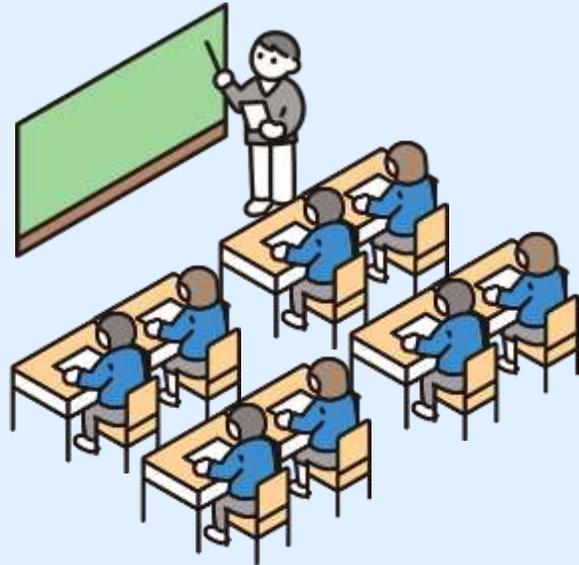
子供たちが自らの学びを「自分事」として捉え、自発的に他者と関わり、学びを深めていきます。

デジタルを活用したこれからの学び

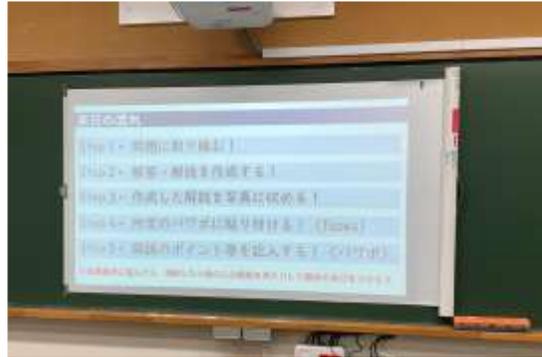
◆ 授業の姿の転換

デジタルを活用したこれからの学び

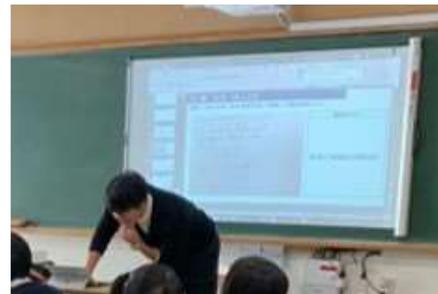
従来の一斉講義型授業



- 教員が黒板の前に立ち、講義する。
- 子供は、講義を聞き、板書をノートにきれいに写す。



子供たちは各自で学習計画を作成し、課題に取り組む。



教員は、端末を活用し子供の学習状況を把握し、一人ひとりに応じた支援を行う。



クラウド上での他者参照、共同編集等による活動共有を通して、考えを広げ、深める。



何を学んだか、どのように学ぶことができたかを振り返る。